

ベトナム子供基金通信

NO.18 2001年10月5日

ベトナム子供基金

〒113-8642

東京都文京区本駒込2-12-13

アジア文化会館内

TEL:03-3946-4121 (代)

FAX:03-3946-7599

電子メール:kodomo.kikin@nifty.com

ベトナム青葉奨学会

QUY HOC BONG LA XANH

c/o TRUONG NHAT NGU DONG DU

43D/46 Ho Van Hue, Phu Nhuan

Ho Chi Minh, Viet Nam

TEL:84-8-8477359 FAX:84-8-8477527

ホウエさん来日懇談会 「人材の育成に努めたい」

ベトナム子供基金は8月4日、来日中のベトナム青葉奨学会代表のグエン・ドク・ホウエ氏を招き、アジア文化会館で懇談会を開催、33名の会員が参加しました。ホウエ氏は青葉奨学会の運営について報告、奨学金の支給対象が全国規模に拡大していると述べました。また、ベトナムはどんどんよくなると強調、今後は子供たちへの精神的支援に力を入れ、将来を担う人材の育成に努めたいと抱負を語りました。

ホウエ 暑い中、私の話を聞くためにお集まりくださり、どうもありがとうございます。

昨年8月、ホーチミン市で全国奨学会の集会がありました。私は直接参加しませんでした。各省の奨学会の代表が集まり、その場で青葉奨学会の活動が報告されました。全国の20数省に奨学生がいますが、その代表にドンズー日本語学校に集まってもらい、青葉奨学会のことを説明しました。みんな感激して、いままで奨学金の支給のなかった省にも支給してくれるように要請を受けました。

それから、私が直接ハノイに行き、今まで奨学金を配っていなかったところにも差し上げるようになりました。北部では5件増えました。中部では、フエの北の元国境地帯で、戦争が一番激しかった地域ですが、今年から奨学金を支給しています。南部はメコンデルタが多かったのですが、昨年カンボジア



国境近辺と高原地帯にも支給しています。現在、北から南まで奨学金が配られております。

事務局の方は仕事に慣れてきました。スタッフの高橋さんをはじめ、チームワークが非常によい。事務局はみんなで地方に視察に行くようになっております。

現在、奨学生の数は468人です。これは、日本も厳しい経済状態にあるので抑えているからです。地方の増やして欲しいという要求は多いのですが、我慢してもらっています。

奨学生の人選については、里親からの意見もあるし、事務局からも意見が出ています。今までの方針は、優秀で貧しい子供たちでしたが、貧しい子供にはやはりハンディーがあります。例えば、机がなければ床で勉強しなければなりませんし、弟や妹の世話もしなければなりません。そういう状況の中、成績は中くらいで、優秀な学生にはなりにくい。もちろん、私たちは金持ちの子供は選びません。しかし、優秀な子供は裕福な、あるいは中くらいの家庭の子供が多いのです。人材育成が建前ですが、あまりこだわるとよくないんじゃないだろうか、だから今回条件を相談して、成績が中くらいだったら、上まで勉強できる子供に支給した方がいいんじゃないか、という意見があります。もう1つの意見は、できるだけ小学生に奨学金をあげたい。同じ金額でも、小学生のほうが人数が増えるわけです。それから3番目は、地方に行けば行くほどベトナムの社会の格差がわかるんです。ホーチミン市は栄えています。だから、貧しいといっても田舎ほど困っていません。だから今後は奨学金は全部地方――特に中部と北部の貧しい地域――に回したいと考えております。

学校建設は小学校の建て直しと、1つの中学校に5つの教室を作り、地方にはない立派なものになりました。それ以外に今2つの学校建設を進めております。1つは洪水被害の

大きいところで、学校兼避難所として中学校を建てることになりました。ただ、この付近は洪水になると全部水につかりますので、私の要求で床は1メートル高くしました。土地の造成は6月に終わりましたが、工事関係者と相談して、基礎がしっかりするまで3か月待ち、着工は今年の11月になる予定です。

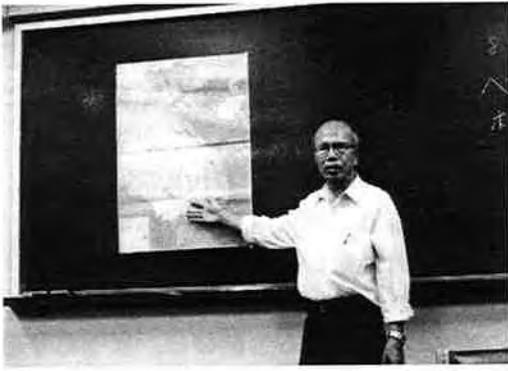
それからもう1つの学校は、静岡県磐田市のユネスコ協会が募金をして建ててくれました。子供基金の学校から150キロ離れたところで、国境の近くです。学校のないところで、そこに教室を7つ作ります。8月30日に完成、9月5日に開校の予定です。引き渡し式は、10月11日に予定されています。

事務局 昨年、子供たちに対する物質的支援はある程度できてきたが、精神的支援がきちんとできていないというお話でしたが。

ホウエ 子供たちの精神に訴えていくために、毎月1回、青葉新聞を出しております。今はまだ内容が乏しいですが、少しずつ、国のこと、生きることなど内容を増やしていきたいと思っております。

会場 私も里親をしているんですが、子供がかなり上級の学校まで行くことを希望しています。それなりの成績であればやはり最後まで見届けてやりたいというのが私たちの心情なんですけれども。

ホウエ 実は私も矛盾を感じております。青葉奨学会の最初の目的は人材の育成です。人道的な事業ではない。貧しいから助けてあげるといった目的ではありません。優秀な生徒を育てて、将来、社会のために貢献してもらいたい。そして、彼らの時代になったら、彼らが自分の後輩のためにやってくれるようになることが最初の目標でした。しかし、そのやり方にだんだん矛盾を感じるようになりました。1つは本人が勉強できるところまで、大学を卒業できるところまで勉強させてあげた



い。しかし、例えば小学1年生から支給すると16年です。1人を16年間面倒見たら大変な金額になるし、1人が独占してしまう。ほかにも貧しい子供がたくさんいます。ですから、皆さんには高校まで援助していただいて、大学になれば本人が自立できるじゃないかと思うのです。しかし、里親のご意向としては、どうしても情が入っています。そして、私たちは反対するというのではなく、感謝しています。ですが、同じ100ドルなら、小学生2人に支給できる。新しい里親の方には、できれば、小学生からお願いしたいのです。

会場 ベトナムから参りました、ホウエさんの後輩です。いま奨学金をもらっている学生たちは非常に感謝して勉強していると思いますが、大人になって貧しい子供たちを援助するようになるのを待つのではなく、奨学金をもらっている子供たちを連帯させるということ、考えていますか。それから、資料によると管理費が8%となっているんですが、これは計画的にやっておられるのかどうか、参考までに教えていただきたいと思うのですが。

ホウエ 成長した奨学生が今後も青葉奨学会にかかわっていくことは、私も考えています。それから学生たちは、先輩として後輩の世話をしてくれます。それから管理費ですが、特に会計の方は大変お金に厳しい。手当ては交通費しか支給していません。それ以外はファックスや紙だけ。接待は1年間で1回もない

です。実費だけしか使っていません。

会場 この子供基金ができたのが95年で、当時から小学生が4ドル、中学生が6ドルで変わってないように思いますが、数日前にホーチミン市から帰国した友達によると、給料は以前に比べると倍以上になっているそうです。この4ドル、6ドルがどれほど役に立つのか伺いたいんですが。

ホウエ 確かに生活水準は向上しています。ホーチミン市の公務員や労働者の給料も上がっていますが、地方はほとんど変わっていません。しかし、価値が違います。お米を買うことができます。お米さえあれば、野菜は自分で作って、魚は自分で獲る。生活費としてはお米を買うだけです。地方では4ドル、6ドルは価値があります。

事務局 地方に奨学金を広げる際、送金の問題はないのでしょうか？

ホウエ 各省は2～3年前から、教育に関心を持ちはじめました。政府も力を入れていません。特に退職した役人たちが、現職のころにできなかったこと、教育に力を入れていきます。だから、どの省・県にも必ず奨学会があります。私たちは彼らを信じて任せています。送金のことは、郵便で間違いなく届いています。送ったお金には書類も添付しており、それに学生がサインして、ちゃんと返送してもらいます。いままで1度も事故がなく運営してきました。

事務局 奨学会というのは奨学金じゃなくて、学習を奨励する会ですか？

ホウエ そうです。例えば貧しい子供が学校に行けない。だったらちゃんと親を説得して勉強させなさいと。奨学金は全然ない。だからみんな喜んでいます。

事務局 どうも皆さん、お忙しいところ、ありがとうございます。

里子からの手紙

2001年5月30日

敬愛なる里親様！

今私の国では夏の初めです。そして夏は私たち子供の一番好きな季節でもあります。でも夏にも嫌いなどころがたくさんあります。

夏の嫌いなどころは、よく雨が降ることです。私の家の道は赤土で、雨が降るたびになんとまあ素敵なおぬかみになることでしょう。2つ目は、恐ろしいほどの暑さです。まるでオープンの中に入ったようで、昼下がりとともなると恐ろしいことに人間の蒸し焼きができそうです。3つ目は、夏休みになって学校に行かれないので、冗談を言ったり遊ぶ友達がなくて寂しいことです。

夏はこのように煩わしくつまらないので、牛のようにだらだらする悪い癖が体に入りこんでしまって、本当にだるく眠たくなるばかりです。

里親様、私はお城でお姫様が眠っているような気分で眠っていたら、母に長いムチでたたき起こされました。ムチのお蔭でやっと目が覚め、この手紙を書こうと思っていたことを思い出しました。

里親様、お許してください。急に私は長く書かなくてはなりません。幸い、母は私に外出禁止の罰を与えました。この10日間ほど家の外に出ることを禁じられ、鍋や食器洗いをしなくてはなりません。まったく！

もう言うことがありません。

里親さま、もう一度、私は里親様にお詫びしたいと思います。里親様が私に罰を与えなければ、私はどんなことでも構いません。例えば、ずっとしゃがんでジャックフルーツの皮をむくとか、どんなにたくさん豚でも我慢するとか。

今年はこれまでの学年と変わりありませんでした。今までのところは家の話でしたが、次に学校の話をしてします。学年末に私は非常に優秀な生徒に選ばれました。

今年の賞品は、学校のノートのほか、1、2、3位の生徒にはダムセン・ウォーターパークの入場割引券も与えられました。上位3位に入れなかった生徒はがっかりして羨ましがっていました。ある生徒など、ぼったり地面に倒れてしまいました。幸運なことに私は2位に滑り込むことができました。

何もなければ何も起こらなくていいのですが、何かあるとそれがまた大変なことになります。これも「おろおろ病」から起きた出来事で、私たち兄弟は、割引券の表だけ見て、裏を見ませんでした。

その夜、割引券を家に持って帰って自慢しました。弟はそれを見つけると、大急ぎで隠してしまいました。あまりにもショックで私は走って母に言いつけに行きました。しかし、そのとき母は台所仕事をしていたので、私は立ち尽すしかありませんでした。

熱い涙で目が膨れ上がり、ぱんぱんに膨張して自分もはちきれてしまいそうでした。

私とその券を弟の棚から見つけ出したときには、再び兄弟で戦争が勃発しました。1枚の券は1人が使うものだと思い、私たち兄弟は力づくで奪い合い、もう少しで券が破けてしまうところでした。父が仲裁に乗り出し、ようやく活火山は沈静化しました。その券をじっくりよく見てから、父は私たち2人の背中に赤いみみず腫れをプレゼントしてくれました。というのは、その券はあと3人まで使えたのです。裏面の注意事項にそう書かれていたのです。えーん、えーん（泣）…。

私は里親様に私の家族をご援助いただいたお礼を申しあげるためにこの手紙を書いています。関係のない話を長々と書いて紙を無

駄遣いしています。

最近、私の父の生徒がみな辞めてしまって、私の家は収入がまったく無くなってしまいました。たぶん里親様はご存知なかったでしょうが、父は収入を増やそうと家で家庭教師を始めたばかりでした。しかし、生徒たちが誘い合って遊びに行ってしまうので、またもや少し大変な状態です。

今まで私は里親様に何千回も感謝してきました。里親様にご援助くださったお金は、母がしっかり貯めておいてくれたお蔭で、必要になったときに初めて使い、また必要になったら使うようにしてきました。私は、感謝と尊敬の気持ちを申しあげる言葉もありません。

少し、手紙が長くなりました。ちょっと、ちょっとだけです！ もし機会があったら、3か月の夏休みについてお話ししたいと思えます。

たぶん私は少しおかしな手紙を書いているかもしれません。でも大丈夫、私の友達はみな、私のことを「ぶんぶん（怒りんぼ）」と呼びます。

あらためてもう一度、里親様に感謝申しあげるとともに、里親様のご多幸をお祈り申しあげます。また私たちに与えてくださったものと同じ喜びをご家族様にもお与えくださいませ。そして、今日本がどんな季節であっても、里親様のご健康を維持され、あまり働きすぎませんように。

里親様の子供

チャン・グエン・バオ・ゴック・クウイン

追伸：私の怠け病を治療するために、母が家で料理を教え始めました。もし里親様が私の家に立ち寄られる機会がありましたら、私の才能をご覧に入りたいと思います。大変だ！ ご飯が焦げた！ ご飯が焦げた！

里親からの手紙

スオン様

あなたが縁あって私の里子になったことを知り、嬉しくてさっそく筆を執りました。はじめまして。

日本とベトナムは同じアジアとはいえ、とても遠く離れています。でも、この広い世界の中、あなたと知り合えて心から嬉しいです。

私は26歳、日本の私立大学で働いています。私がなぜ里親になったかという、私自身が教育を受けることによって、素晴らしい人生を歩んで来た、また歩んでゆける、そしてそれを同じ女子生徒にも味わって欲しいと願ったからです。

私は大学で歴史と教育を学びました。スオンさんは私と一緒に歴史が得意な様ですね。私は歴史（世界史）の教員免許を持っているから、なんだか歴史が得意な生徒に出会うと嬉しいです。

ただ、何よりも私が願うのは、スオンさんが心から安心して自分の好きなことに打ち込み、素晴らしい学校生活を送ってくれることです。写真で見るあなたの目はとても綺麗な瞳をしています。是非その輝きを失わないでくださいね。

それでは、また手紙を書きますね。体を大切にしてください。お父様やお母様にもよろしくお伝えください。

2001年6月8日

金子 麻知子

ーメコンデルタのすすめー

高橋 佳代子

7月**日晴れ。今日は田舎へ行く日だ。朝6時半集合。「早めにいっところ」と思って10分前に着いたらなんとみな来ていた。ベトナム人の時間を守らないというのは、あなどれない。

今日の目的地はベンルックとカイベというメコンデルタの街。私が働いているところはベトナムの子供たちへ奨学金を支援しているのだが、1年に数回は地方の子供たちの様子をスタッフやボランティアスタッフもわかっておかなければ、というはからい？でメコンデルタの街に決まった。

話を始める前に、少しメコンデルタの話しよう。ベトナムという国はアルファベットのS字に似ているといわれるが、メコンデルタはその最も南のデルタ地帯である。日本という九州のような位置になるだろうか。メコンデルタには合計12省があり、人口約1600万人、全人口の約21%を占める。

メコン川はラオス、カンボジアを流れ、そしてベトナムを流れて南シナ海へと注ぐ。メコン川といっても1つの川があるわけではなく、いくつもの大きな川を総称してメコン川と呼ぶ。そして大きな川にはいくつもの支流があり、小さな運河が築かれ、肥沃なデルタ地帯を形成する。はじめてメコン川を見たときは海かと思い、はじめてデルタを見たときには一面の川に見えた。南部のベトナム人は「川」というとメコン川を思い出すから、日本の川という概念を想像するのが難しい。

最初の目的地はロンアン省のベンルックという街。この省はメコンデルタの入り口にあたる。国道1号線を通ってサイゴンからは道

がすいていれば約1時間半で到着する。中学校の先生との約束の時間は9時だというのに、なんと8時前に着いてしまった。日本人なら、どこかで時間をつぶして約束の9時に学校へ行くのが普通だ。しかしここはベトナム。

「来ちゃったものはしょうがないから行ってしまえー」というノリで、さっそく学校訪問に入る（ちなみにこの日は5人で出かけた。もちろん日本人は1人である）。

学校には大きな池があってその周りに男子学生が遠巻きに見ている。女子学生は校内清掃の日なのか、草むしりをしている。今日の学校訪問のメンバーはかなり平均年齢が高かったので、学生たちはあきらかにびびっていた。唯一私が学生に一番近いのである（それでも15歳ぐらい離れている）。職員室へ挨拶に行くが、校長先生はまだ来ていない。外で何人かの生徒と話をしようとする。「名前は？学年は？」みんな素直に答えてくれるからこらで一つ写真でもと思ったとき、スタッフのマイさんが「彼女は日本人なのよ。でもねベトナム語がわかるの」と紹介した途端カメラに笑顔を向けていた子たちが一斉に逃げ出した。私もマイさんも「逃げなくても大丈夫」と何回も言うのに、写真を撮るそぶりをした瞬間さっと散っていく。田舎の子にとって外国人はまだまだ客寄せパンダなのだ。はじっこから私の行動を興味津々で見つめている。そんなこんなしているうちに校長先生がやってきた。8時15分ころである。もちろんだが生徒たちは来ていない。たまたま草むしりをしていた生徒が奨学金の支援を受けていたのでさっそく彼女の家へ「突撃訪問」することにした。学校から3分間ぐらい車に乗って、それからたんぼのあぜ道を歩く。私は子供のころ、よくあぜ道を歩いたのでなんの違和感もないのだが、他のスタッフは都会の人ばかり。15分の道のりを大（7頁へ続く）

(6頁から続く) 騒ぎしながら歩いている。ちょうど稲穂がすくすく伸びている時期で農家の人が雑草を抜いている最中だった(写真)。



たんぼの真中に立つと風が吹いてきて緑の匂いが漂う。

四方をたんぼに囲まれたその生徒の家は、ぜいたくなものはなかったけれど生活に必要なものはそろっていた。お母さんは32歳で2人の子供がおり、夫婦で農業を営んでいる。米は1年に2回ほどとれるがお米を売ってもたいした金額にはならないらしい。だから農業の合間に日雇いをして生活費を稼いでいる。

家の周りには、まるまると太った巨大オクラが生えていて、スタッフ一同いいオクラだと絶賛していた。またパイヤの樹や野菜サリー(さくらんぼに似た果実)の樹もあって、ハンモックも備え付けてある。牧歌的な光景だ。しかし、もし雨が降り続いたり集中豪雨がやってくると家は水に浸かり国道へ出ることもままならない。

10分ほど雑談をして、時計を見るとすでに9時を過ぎている。その後もう1件足早に突撃訪問を行い学校には立ち寄るまもなく次の目的地カイベに向かう。その際、おみやげにココナッツをもらった。あと庭に生えている巨大とうがらしももらった。ベンルックからカイベまでおよそ1時間半。約束の時間は10時。ベンルックを出発したのが10時前だから

到底約束の時間には間に合わない。こんなとき日本人だったら青くなるが、さすがおらかなベトナム人。「しかたがないよね」と言って終わる。

カイベはティエンザン省の街の1つである。約束の時間を大幅に過ぎて学校へ到着。12時前である。

ここは小学校だったが今日のためにカイベで奨学金を受け取っている学生を呼んでくれた。この地域では中学生からアオザイと呼ばれる民族衣装を制服に着ていた。学校の建物がかなり老朽化していて、やしの葉で葺かれた教室で勉強している。この地域はベンルックと違っていろいろな職業の選択はあるが、奨学金をもらっている家庭はほとんど日雇いの仕事しかしていないらしい。この学校ではさすがに外国人とって逃げられたりはしなかった。先生がこの地方の特産物であるロンガンとランブータン、バナナをくれる。そしてまた突撃訪問である。本当に突撃だったのでおばあちゃんしか家にいなかった。おばあちゃんはびんろう樹の実とキンマの葉をかみながら(写真、これに石灰を砕いたものを同時に口にいれると一種の覚醒作用が起こる。地方のおばあちゃんがよくかんでいる)家の事情を話してくれる。両親も日雇いなので大変なのだとか…。おばあちゃんと一緒に写真をとり、お礼をいって家をあとにした。



時計は1時半をまわっている。サイゴンへ何時に着くか…。途中で遅い昼ご飯をとりひたすら帰路を急ぐ（といっても私たちはどうもできなく運転手によるのだが）。

みんなお昼寝タイムだったが、なぜか今日に限って眠くならない。私は遠い日本のこと、ベトナムの事、将来のことなどに思いふける。メコンデルタの色は本当に美しい。自然の艶やかな色が本当に魅惑的だ。空の色、花の色、稲の色、そして人の表情。やはりサイゴンという都会にはない匂いと空気がある。

そして再びベンルックを通り過ぎようするとさっき会った校長先生が手を振っている。何事かと思いきや、15キロのお米と20個のパイナップルのお土産を渡すために待っていてくれたのだ。メコンデルタの人は人が本当にいいと聞いていたが、まさしくその現場に出くわしたのである。おみやげを満載した車は、交通渋滞にも巻きこまれず、4時にサイゴンに到着した。

再びサイゴンの喧騒の中に戻り、メコンデルタのことを考える。おおらかな人が多く、美しい田園風景と花が咲いている街、メコンデルタ。しかしその裏には農作物の安さと、失業率の高さ、毎年の洪水の被害にさらされる、という厳しさも持っている。

やはり、あまり気安く「メコンデルタは美しい」とか「豊かだ」と言っではいけないような気がする。でも決して貧しくはない。今の日本のほうがまだ病んでいるし、貧しい。

日本のみなさんは、このメコンデルタの街をどんな風を感じるのでしょうか。豊かだと感じるのか、貧しいと感じるのか、それとも行ってみたいと思うか？ もし行ってみたいと思った人、今がチャンスです。チケットを買ってベトナムに来てください。

(たかはし かよこ・駐ホーチミン市スタッフ)

有言実行。断ったからには私は本当に一切予習・復習をしなかった。でも授業はがんばって出たつもりだ。クラスメートは同僚の日本人二人。やる気十分。忙しさは同じはずなのになぜか予習も復習もしている。

「あ、これ、この前勉強しましたよね」

「そうですね」

「……」

「この単語、確か5ページほど先にありませんでしたっけ？」

「ああ、私も見ました」

「????」

勉強というものはとかく環境に左右されがちだが、私はこの二人に本当に感謝している。たった数か月だったが私は“切れそうになった命綱の最後の一人”の気分で勉強することができた。そして何よりも私が学んだのは、「自分の教えているクラスにも必ずこういう足を引っ張るヤツがいる。そしてそれを助けてくれる仲間もいる」ということだ。もちろん、いったん教壇に上がるとついつい、「はあ…。これ、先週勉強しましたよね？」「〇〇さん、人に聞かないで自分で答えてください」などと毒づいてしまうのだが、まさにその瞬間に学生たちの気持ち、そして何よりも自分の先生の気持ちが見事に想像でき、心の中で頭を下げる。先生、ごめんなさい。

それでも私はめげずに自分のペースで勉強した。復習は社会勉強をかねて近所の道端で。

なんせベトナムの人は少しでも発音が違っていると、顔中のしわを寄せて怪訝そうに、「はあ？」と聞き返す。その恐ろしい形相と声音にたじろいで尻込みしてしまいたくなるがここでがんばる。

これはきっとベトナム語、いやどんな言語を勉強したって通るべき道だろう。バナナシェイクが通じなくてバニラシェイクが出てきた留学時代。パイナップルジュースが飲みたかったのに2分後にはなぜかココナッツジュースのおいしさを再認識する羽目になっているサイゴンの街角。

そういえば、“日本 (Nhat Ban)” と “友達の家 (Nha Ban)” の違いがまったく発音できなかったころもあった。例によって、ぼおーっとコーヒーを飲んでいたら、店の前に公衆電話が見えたので、「これ、日本に電話できるの？」（国際電話という言葉が知らなかったの…）と、おばちゃんに尋ねると、「どこに電話するのん？」

「え？日本」

「だから、どこに電話するのん？」

「え？だから、日本」

二人ともどンドン声荒くなる。結局電話のそばにあった国際電話料金表を私が見つけ、話は解決。この会話、“日本”を“友達の家”と入れ替えて読んでみると、そりゃなんとも情けない会話だ。おばちゃん、ごめんなさい。

話は変わるが、ベトナムの道にはすべて名前がついており、それと数字をあわせて「〇〇通りの何番地」というふうに、住所さえわかれば郵便屋さんでなくても簡単にそこへたどり着ける。しかし当然のことだが、通りの名前もベトナム語、である。バイクタクシーやタクシーに乗ったとしても、これが言えなきゃぁコトは始まらない。

一度、日本からの友人たちを連れてタクシーに乗ったことがあった。行き先はカタカナの「レ・タン・トン」と私の脳にインプットされているだけ。そのまま「レ・タン・トンに行ってください」と言ってみたが、もちろん通じない。困った。南部のベトナム語には5種類の発音の仕方があるので、単純に計算

すると、この3語の言葉は5の3乗イコール125種類の発音の仕方があることになる。そんなどうしようもない計算をしている間にもタクシーは走りつづける。運転手のお兄ちゃんも困っている。私も困っている…。しょうがない。私はとりあえず適当に発音記号をつけていろんなパターンを試してみた。

「れ・たァん・トン？ レ・たん・とおん？
れー・たーん・トン？」

お兄ちゃんもそれっぽい通りの名前を適当に挙げてくれる。すばらしき共同作業。しかし友人は横でくすくす笑っている。あ〜、こんなことならこれだけでも練習してから乗ればよかった…。そして数分後、そのうちの1つが見事にお兄ちゃんのツボにはまった。

「ああ〜、Le Thanh Ton ね！」

こうやって私たちは無事目的地に到着できたのだ。面白いことに、こうして恥をかい覚えた言葉は決して忘れない。ありがとう、お兄ちゃん。

このころから、私はようやく道の名前を覚え始めた。授業の後や遊んだ帰り道に、ちょっとだけ遠回りをして帰ってみるのだ。もともと地図を見るのが嫌いな私は、道に迷っても手っ取り早いのでその辺の人たちに聞く。もちろん答えは聞き取れないが、「ありがとう」とだけ言ってその人の指差す方向にひたすら進むのである。しかし不思議なことに、誰に道を聞いても必ず答えが返ってくる。そして気づいた。彼らは「とりあえず」どちらかの方向を指差してくれるということ。そして学んだ。道に迷ったら最低3人に聞いて多数決を取るべきだということ。

いろいろ探検を始めると、自分の住んでいる場所がかなり街のはずれにあることに気づいた。しかも夜は帰宅したら門番の人にいちいち戸を開けてもらわなければならない。ベトナムではこういうタイプの家が大半なのだ

が、これでは気の済むまで(?)遊べないではないか…。私は引越しを決意した。

条件は、自分で鍵を持たせてくれるところ、ごちゃごちゃした路地にある、の2つ。そしてなんと、1軒目の家で理想的な場所に理想どおりの条件にめぐりあえた。後々、何度も友人や学生に、「なんでこんなトコに住むん? ごちゃごちゃしとうし…」 「せんせい、この近くは治安があまりよくありません」などと眉をひそめられたが、私にとっては愛すべき、すばらしい環境だった。

いつか友人が“ベトナムの文化は路地があり”と一人で頷いていたが、とにかく路地の中ですべて事足りるのだ。麺屋、ごはん屋、市場、コーヒー屋、雑貨屋、美容院(これはちょっと勇気が必要だが)…。私は来越以来はじめて安住の場「自分の家」を見つけたような気分だった。

気づくとベトナムに来て半年以上が過ぎている。なんとか生活のペースがつかめたころだが、そろそろ先のことを考えねばならない。もう一度言うが、そしてもう一度謝るが、私の本来の目的は“教育関連のNGO”だ。ごめんなさい。私はどちらかという、何かを始めるとすぐにハマってしまうタイプだ。日本語教師を始めて自分なりに手探りで一生懸命やっていると、この仕事の面白さ・深さが見えてくる。授業を終えた後の深あい反省とちょっとした満足感。完璧だといえる授業なんてまったくないが、“次はこうしよう”とその分経験となり次回へ生きてくる。それになんといっても、まったく会話の成り立たなかった学生たちと日本語でコミュニケーションしている自分を発見したときの嬉しさは表現しきれない。このまま続けようか…。

ぐらぐらと揺れていたある日、学校内の一枚のビラに目が止まった。“テト(旧正月)に恵まれない子供たちに洋服を配布する活動”

——。事務所は?誰がやっているのだろうか?ビラを食い入るように読んだ。!!!……。こ、この住所はこの学校では?どういうこと?灯台下暗し。まさかこの建物の中にベトナムの子供たちを支援する団体の事務所があったとは。しかも団体の代表者はうちの校長先生だったとは。早速、何百回も知らずに通り過ぎていた一室のみの事務所を訪ねた。

事務所内は洋服配りの準備の真っ最中だった。忙しい中、唯一の日本人スタッフが活動内容を説明してくれる。日本から支援をもらってベトナムの子供たちに奨学金を出している団体であること、年に1度テトの前に施設をまわって新しい服を配っていること…。

話を聞いているうちに、自分の中で何かわくわくしているものがあることに気づき、なぜか喉が渇いてくる。一瞬にして先が見えてきたような気になった。

「とりあえずこの活動、お手伝いさせてもらえませんか?」

授業の合間を縫って、行けるときはスタッフの人たちと一緒に施設を回って新しい洋服を配り歩いた。初めて訪ねるベトナム市内や郊外の孤児院やお寺、病院…。右も左も、もちろんベトナム語もわからず、ただついて回っただけだが、自分の中の“わくわく”が確実にさらに大きくなっているのを感じる。

当時の報告書には、孤児院で子供たちに洋服を手渡している偽善者っぽい笑顔の私が写っている。しかし、ありきたりだが、子供たちの笑顔というものはこっちまで幸せにしてくれる。洋服をあげたはずの私たちが何かを受け取っている。私は「みんなが楽しいテトを迎えられますように」と心の底から願った。そして腹の底では、「う～ん、どうやったらこの団体に潜り込めるだろう?」と、対策を練り始めていた。

(わきひら ひろみ・前駐ホーチミン市スタッフ)

始めに

風が吹くと黄色に色づいた木の葉は落ち、元気な若葉と新芽が生まれる。それらの若葉は新芽が芽をだすには、良く育ってほしいという願いを持って世話をすることが必要である。私の小さな贈り物が可能性はたくさんあるけれども世の中でチャンスが少ない若い世代の人々を支援している。

青葉奨学会は当奨学会の活動のお知らせを青葉新聞として送ります。またこの新聞を通じて奨学生のみなさんへ青葉奨学会の願いが伝わることを心から祈ります。

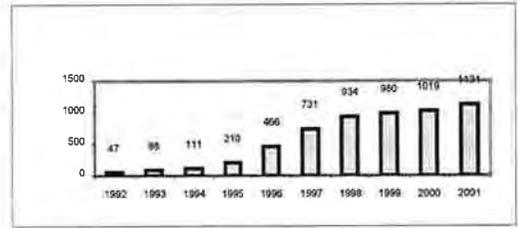
青葉奨学会編集部

青葉奨学金支給関連：

- 新年の初めのにぎやかな雰囲気の中、青葉奨学会は“春の樹”ボランティア教室やホーチミン市内の経済的に恵まれない子供たちや孤児の子供たちへ新しい制服を贈る活動) 運動を行いました。贈った制服の総数は2000年度よりも1,5倍多い1240着でした。
- 2001年2月11日、ホーチミン市共産党所属会議場において2001年第一期奨学金授与式を行いました。ホーチミン市への奨学金の総数は500名ほど、各省への奨学金に関しては2000年度より100名分増えました。現在ベトナム全国で青葉奨学金は1117名分の奨学金を32の省へ支給しています。
- 2001年度奨学金支給数：

各団体	奨学生数	新奨学生数	合計
ベトナム子供基金	390	78	468
北陸ベトナム友好協会	266	55	321
青葉奨学会沖縄委員会	108	23	131
その他	99	95	194
AOTS	3	0	3
ベターホーム	5	9	14
合計	871	260	1131

奨学金支給変化数：



各省の青葉奨学生達：

これまでに支援した省 (23省)	新しく支援する省 (9省)
ホーチミン市、ロンアン省、ティエンザン省、ヴィンロン省、カントー省、カーマウ省、タイニン省、ラムドン省、ビントゥアン省、ニントゥアン省、フワイエン省、クワンナム省、クワンガイ省、クアンチ省、ビンディン省、ダナン省、フエ、ゲアン省、フンイエン省、ナムディン省、ハノイ、ヴィンフック省、ベンチエ省	ドンナイ省、ビンズオン省、ビンフック省、ダックラック省、クワンビン省、ハティン省、タイビン省、ハイズオン省、バックニン省

その他の活動報告：

- 春の樹(テトに1着の晴れ着を贈る活動) 運動や奨学金活動の他に、青葉奨学会では日本人の里親のかたが山岳地域や国境地域などの都市から離れた地方での学校建設を支援する運動も行っています。2001年4月9日青葉奨学会はベトナム子供基金(東京に本部を置く)の里親の方を代表してBINH PHUOC省BU DANG郡DAKNHAU村の中学校の開校式に参加しました。この学校は4教室と職員室1室からなっており合計1億8317万6000ドン(日本円にして 約153万円)、新しい中学校の名前はCHU VAN AN中学校と名づけられました。
- 青葉奨学生の里親の方々が支援している里子を訪問する機会がありました。
- 里親の高橋強さんが2001年1月2日と4日に里子のPhi Dang Khoaさん(ハノイ在住)とDang Le Khanh Vanさん(フエ在住)に会いました。
- 里親の中茶六郎さんが2001年1月25日に里子のPham Giang Ngan HaさんとTran Tin Hoang Bao Thuong に会いました。
- 里親の吉田誠智一・たまえご夫妻が2001年3月23日に北陸ベトナム友好協会が支援している里子達5人、Nguyen Anh Minhさん、Nguyen Thi Thanh Hangさん、Pham Thi Thanh Caさん、Nguyen Thi Kieu Tienさん、Pham Thi Hoang Yenさんに会いました。

- 5月3日、以前青葉奨学会ホーチミン事務局で働かれていた渡辺明美さん（旧姓丸山明美さん）がご夫妻でベトナムを訪れ、当事務局にも訪問される予定です。またこの期間、明美さんはかつて春の樹運動で廻った各施設を再び訪問する予定です。明美さんは当事務局で約2年間、里子が里親に書いた手紙をベトナム語から日本語に翻訳する仕事をしていました。渡辺さんはベトナム語も上手で、ベトナムに深い愛情をよせているかたです。
- GOOD NEWS :
- 今日、青葉奨学会は工科大学の電気・電子学部、テレコミュニケーション学科を優秀な成績で卒業し、現在この科で講師として教えている Ho Van Khuong さんのような卒業生を迎えています。また Nguyen Minh Khanh さんは法律大学を卒業し、共産党中央事務局で働いています。
- その他にも優秀な学生で友人の困難を手助けする Nguyen Hoang Quan さんは Vo Thi Sau 小学校3年生で1つ星賞（クラスに与えられる賞）をとりました。また Hoang Van Thu 中学校6年生（中学1年生）の Le Man Nhu のように優秀な成績で、区の英語試験で最優秀賞をとった学生や Tran Phu 中学校の9年生（中学4年生）でホーチミン市内の地理試験で2等賞をとった Tran Thien Huong さんのような学生もいます。青葉奨学会では各奨学生のみなさんといっしょに喜び、他の奨学生のみなさんからのたくさんのお知らせも待っています。もしみなさんが何か賞をとったらすぐに青葉奨学会へ知らせてください。
- 青葉奨学会は青葉奨学会の卒業生のみなさんに集まってもらい交流を行いたいと思っています。青葉奨学会実行委員会は卒業生のみなさんが当事務局への連絡してくれることを心からお待ちしております。

HOI KHUYEN HOC DONG DU

QUY HOC BONG LA XANH

43D/46 HO VAN HUE - Q. PHU NHUAN

TP. HCM - VIET NAM

NT : 8.477.359 - Fax : 84.8.8477527

Email : hb1x@hcm.vnn.vn

私は外国の子供たちに里親としてお金を送り始めて13年になります。なぜ私がお金を送ったかという、私は世界中の子供たちが同じように幸せになって欲しいと思ったからです。世界中の子供たち皆が幸せになるのには長い年月がかかるでしょう。そのためには地球上から争いがなくなり、世界中が平和にならなくてはなりません。民族や宗教や思想の違いを乗り越えてお互いに理解しあい、認めあい、許しあって仲良くなる必要があります。大きな大きな宇宙の中ではごみよりも小さいこの地球上で生きていく人類はみな同じ地球人なのです。私は世界中の子供たちにこのことを知って欲しいのです。

私と関わりあった子供たちが大人になった時、またその子供たちに教えてあげて欲しいのです。そしてまたその子供たちが大人になった時に次の世代に伝えていく。そのようにして世界が平和になって地球上の子供たちはみな同じように幸せになったら良いと思うのです。それが私の夢なのです。

そこであなたにお願いがあります。どうか私の夢がかなうように手伝って欲しいのです。できればあなたが大人になった時にあなたのまわりの人たちに私の話を伝えてもらえるとよいのですが。そしてベトナムの子供たちがみな豊かな暮らし（生活）ができるように、ゆくゆくは世界中が平和になるように努力してもらえたらと思います。あなた1人の力で実現はできないでしょうが、ほんの少しでも平和のために何かをしようと思える人になって欲しいです。どうか自分の富や地位のみしか考えない人ではなく、皆の幸せを願える人になってください。

あなたはとても勉強をがんばっているそうなので、私は遠い国からあなたのことをずっと心の中で応援しています。

あなたとあなたのご家族の健康と幸せをよりしております。

事務局注：青葉新聞はベトナム青葉奨学会がベトナム語で発行している里子向けの新聞です。

心の想い

二つのひとみに希望の光が輝いている
 その笑顔が更に明るい顔を創り出している
 「心からありがとう」という文字の中に里親様から
 いただいたお金で冷めたご飯を食べて学校へ行くこ
 とができます。そしてノートを買うことができま
 す、という言葉がすぐに思い浮かぶ
 ‘青葉奨学会の子供たち’といつも私たちが呼んで
 いるけれども、遠い日本から心の励ましのような奨
 学金を受け取る時、あなたがたはいったい何を思う
 のでしょう
 あなたがたが社会の役に立つように、賢く優秀な学
 生に相応しくなって立派に成長した後、どんなこと
 をするのでしょうか。そうあなたがたが青葉奨学金と
 いう支援を受けたことを振り返りながら。

敬愛なる里親様、私たちの心の中には子供たちの
 瞳の中に感謝の気持ちがあふれていることを知って
 います。

青葉奨学会編集部

青葉奨学金支給関連：

- 青葉奨学会は「速報のお知らせ」の紙を配りました。これは5年生、9年生・12年生の学生が来年どこの学校へ進学するのか、また大学生の就職先を知るためです。
- 2001年2月11日 青葉奨学会実行委員会の代表である Nguyen Duc Hoe 氏が北部の各省を訪れ奨学金を授与しました。（ヴィンフック省、ハノイ市、フンエン省）またタイビン省、ハイズオン省、バックニン省の各省の奨学会へも赴きました。2002年度青葉の家庭にこれらの省の優秀な学生が更に参加できるようになることを希望します。
- ヴィンフック省やタイビン省、バンメトート、ダナン、クワンガイの各奨学会そして Moc Hoa 小学校（ロンアン省）から各地域で行われた青葉奨学金の授与式の写真と奨学会報が送られてきました。
- 学生達からの里親様へのお礼状は今まで48.1%です。
- 夏の初め、里親の方々から遠い日本からベトナムを訪問され、支援している学生と会いました。
 ◇ 里親の石出修一さん(ベトナム子供基金)が2001年4月24日、里子の Nguyen Thi Ngoc Anh さんに会いました。
 ◇ 里親の宮崎絹子さん(ベトナム子供基金)が2001年5月12日、里子の Ta Khuong Duy さんに会いました。
 ◇ 2001年1月2日里親の高橋強さん(ベトナム子供基金)が里子の Phi Dang Khoa さんに会われた際、ハ

ノイのタイホー区にある An Duong 小学校へ約500万ドン分(約350ドル)の図書を寄付しました。

◇ 6月7日から9日まで里親の佐藤晴美さん(ベトナム子供基金)がベトナムを訪れ、5人の学生に会いました。フエ市の Nguyen Thi Minh Chau さん、ホーチミン市の Tran Ngoc Anh Mai さん、Le Hong Kim Ngan さん、Pham Quynh Anh さん、そしてティエンザン省の Luong Van Thien さんに会いました。Le Hong Kim Ngan さんは昨年まで青葉奨学生でしたが、現在は短期大学を卒業しています。

GOOD NEWS :

1学年が終わり青葉奨学会の学生たちは学習面で以下のような優秀な成績を修めました。

学生番号	名前・省	
KO-496	Hoang Thu Quynh (ナムディン省)	国際オリンピックにてロシア語・銅メダル
KO-360	Nguyen Quoc Khanh (ホーチミン市)	全国主催の試験にて化学・2位
KO-539	Nguyen Thuy Thao Quyen (ロンアン省)	メコンデルタ地方主催の試験にて、生物・3位
KO-033	Le Trong Thuy Dan (ホーチミン市)	4月30日オリンピックにて国語・金メダル
KO-034	Vu Thanh Quynh (ホーチミン市)	4月30日オリンピックにて国語・銀メダル
HO-300	Nguyen Thanh Hao (ホーチミン市)	ホーチミン市主催試験にて物理・1位
KO-017	Nguyen Anh Tuan (ホーチミン市)	ホーチミン市主催試験にて英語・1位
KO-032	Tran Thien Huong (ホーチミン市)	ホーチミン市主催試験にて地理・2位
KO-202	Nguyen Thi Ngoc Hien (ホーチミン市)	ホーチミン市主催試験にて英語・3位
KO-039	La Cam Uyen Chi (ホーチミン市)	ホーチミン市主催試験にて国語・3位
KO-126	Phi Thi Thu Lan (ホーチミン市)	ホーチミン市主催試験にて歴史・3位
KO-141	Dang Pham Y Nhi (ホーチミン市)	ホーチミン市主催試験にて生物・3位
NK-249	Dang Tran Truc Dao (ホーチミン市)	ホーチミン市主催試験にて国語・3位
KO-651	Dang Minh Chau (ハノイ市)	ハノイ市主催試験にて歴史・特別賞
HO-401	Nguyen Anh Tuan (ハイズオン省)	ハイズオン省主催試験にて数学・1位
A0-002	Luu Phuoc Trung (ホーチミン市)	ホーチミン市主催試験にて
HO-408	Nguyen The Loc (ハイズオン省)	ハイズオン省主催試験にて数学・2位
KO-406	Ngo Thi Quy (ナムディン省)	ナムディン省主催試験にて歴史・2位
KO-497	Pham Van Thang (ナムディン省)	ナムディン省主催試験にて物理・3位

注意 全国主催の試験は教育省が中心となって優秀な生徒のを選抜し試験を行います。

4月30日オリンピックは南部(フエ市以南)の各学校が中心になって優秀な生徒を選抜し試験を行います。各市、各省で行われる試験も優秀な生徒を選抜し試験を行います。

各地域で優秀な生徒の成績を多くの学生が修めました。しかし今回の発行に間に合わなかったものもありますので、次回の新聞に掲載します。来年度も青葉奨学会ではみなさんからが努力して優秀な成績を修めること期待しています。

学生の手紙から

1. … “毎日私は2時間かけて自転車で学校へ通学しています。でもそのことは大変ではありませんし、苦しくありません。私が何よりも恐いのただ1つだけ、学校へ行くことができなくなることです。時々学校へ行けなくなるという悪夢を見ることがあります。” …

(OK-168 ビンディン省クイニョン在住 11年生)

2. … “1年生の時から私が他の友人に比べて不幸だと思ったのは両親がいないことでした。しかしその一方で祖母が私を育ててくれました。先生方は私の学校での面倒を見てくれます。婦人・子供委員会から本や贈り物をいただきました。そして青葉奨学会からは奨学金をいただきました。…これらの支援があつて始めて私は成長することができそして他の友人と同じように学校へ通うことができました。” …

(NK-196 ティエンザン省チョガオ在住、3年生)

3. … “1992年私の母は白血病にかかりました。その時に父も突然脳卒中で倒れ半身不随の体になりました。私は学費免除で学校へ行くことができました。またいつも先生や友人達、近所の人たちの助けがありました。ですから私自身一生懸命がんばって優秀な成績の成績を修めることができました。1996年私は友好の家と呼ばれる孤児院へ入りました。ここで育ててもらいながら学校へ通いました。

していきたいという夢をかなえるべく青葉奨学金を受けることができることができました。” …

(KO-651 ハノイ市在住10年生)

4. … “10才になると母は私に道でビニールを拾う仕事をするを許してくれました。この仕事は大変苦しくてそれなのに自分自身を養うことも十分ではありません。ですから私と姉は朝の3時にChanh Hung漁港へ行って魚を拾って家に持って帰って食べました。12才になると私は「宝くじを売る」仕事に変わりました。この時から今まで大変でしたが、何とかやりくりをして生活し学校へ通いつづけました。そのような中でも私はいつも優秀な生徒でした。先生達は売れ残った宝くじを明日のための宝くじを準備する資金にできるように買ってくれました。” …

(NK-179 ホーチミン市在住 8年生)

5. … “私はこの良い学校へ通うことができ本当に幸運です。先生方は誠心誠意教えてくださいます。「友達だから助け合つて当然」という友人達に会うことができました。私は孤児ですがすべての人の温かい愛情に包まれて暮しています。そして今日、私は青葉奨学金を受け取ることができました。私の中でこのうれしさは表現できませんが、私のことを社会は見守ってくれていて私は世界で孤独に見捨てられているのではない。だからこんなに多くの人々が私を助けてくれる と理解しています。

(HO-359 タイニン省在住7年生)

これらの学生の心からの願いは？

それは学校へ行くことができるということ

HOI KHUYEN HOC NONG DU
QUY HOC BONG LA XANH
43D/46 HO VAN HUE - Q. PHU NHUAN
TP. HCM - VIET NAM
NT : 8.477.359 - Fax : 84.8.8477527
Email : hblx@hcm.vnn.vn

4年間連続で私は優秀な生徒の成績をとりました。2000-2001年度私は試験に合格して10年生になり、今年ハノイ市内の優秀な生徒に選ばれました。幸運の神様が私に微笑んでくださったのです。まさにその時不幸な子供が更に向上